

知っているだけで未来が変わる!?

高校生のための 金融リテラシーカりょく

大人になるうえで大切なお金にまつわる4つの視点 _ P2

①借る 正しく知っておこう「借る」ということ _ P2

②守る 悪質商法からお金を「守る」 _ P4

③備える ライフプランを立てて「備える」 _ P6

自分のライフプランを想像してみよう _ P8

④増やす 「増やす」うえでカギとなる資産形成 _ P10

資産形成のポイント _ P12

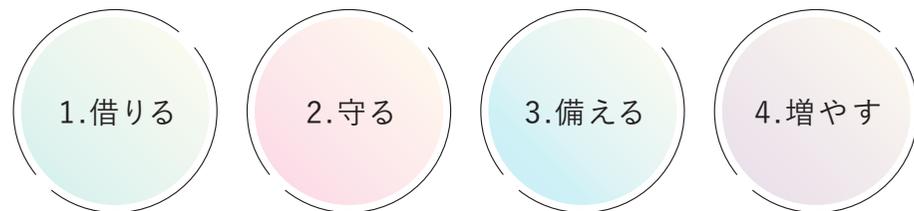
生涯におけるリスク管理 _ P14



成人になるうえで大切な お金にまつわる4つの視点

あなたは「お金」という言葉から、何を思い浮かべますか。お金は食べ物や服、家など、生きていくために必要なものを得ることができる、大事なものです。

今、あなたが高校生ならば、お金は基本的に「使う」ということが多いのではないのでしょうか。例えば、本やマンガ、ゲーム機を買ったり、月々のスマートフォンの料金を支払ったりすることもありますよね。でも実は、お金には「使う」以外にもいくつかの要素があります。この冊子では、これから成人していくにあたって知っておいてほしいお金の知識を、次の4つの視点からご紹介していきます。



1. 借りる 正しく知っておこう「借りる」ということ

2022年から、18歳になると「成人」という扱いになりました。つまり高校生のうちに成人になる人が多く出てくるのです。

成人になるとどのようなことができるようになるのか知っていますか。主なものを下記にあげてみます。

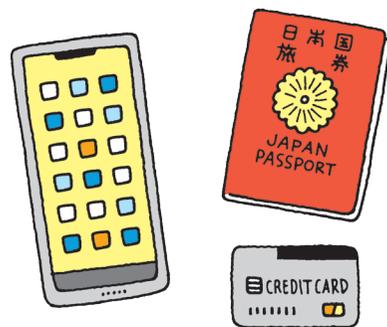
◎親の同意なく契約ができる

- ・ローンを組む ・クレジットカードを作る
- ・携帯電話の契約 ・一人暮らしの部屋を借りる

◎男女ともに18歳から親の同意なしに結婚できる

※女性の結婚年齢は16歳から18歳へ

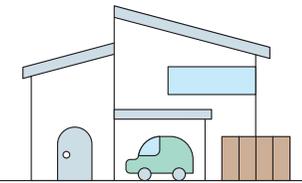
◎10年有効のパスポートを取得できる



今回は、この中から「ローン契約」「クレジットカード」に注目します。実は、この2つはこの項目でテーマとなっている、お金を「借りる」ということなのです。まずは、この「借りる」という点からお金について一緒に見ていきましょう。

ローン契約

住宅をはじめとした高額な買い物をする際に、必要なお金を銀行などから借りて支払い、その後、毎月少しずつ返済する（借りたお金（元本）に加え、利息も支払う）という方法。突然の出費でお金が必要になる場合などにも使われます。



クレジットカード

クレジットカードを使って買い物をすると、クレジットカード会社からお店に料金が支払われ、その後、クレジットカード会社から私たちにその金額が請求されます。クレジットカードを使うことは、実はお金を借りていることと同じなのです。クレジットカードの場合、一括で支払えば手数料はとられませんが、「分割払い」や「リボ払い」という支払い方法にすると、手数料がかかります。

クレジットカードで30万円分の買い物をした場合の例

		支払い総額	1回の支払い額
分割払い	6回払い 手数料15%	31万3,260円	5万2,210円
	12回払い 手数料15%	32万4,929円	2万7,077円 (初回は2万7,082円)
リボ払い(リボルビング払い) 手数料15% 1回の支払い額を2万円としている場合		33万4,311円	2万円 (最後は1万4,311円)
一括払い 手数料なし		30万円	

※この表におけるリボ払いは、元利定額方式（月利1.25%）による金額の例。

Caution!

手数料はクレジットカード会社によっても異なります。さらに、分割回数が多くなるほど手数料が高くなる場合もありますので、利用する前に、必ず確認するようにしましょう。

! 多重債務には要注意!

多重債務とは、借金を返済するために別の金融機関にお金を借りるといったことを繰り返してしまうこと。ローン契約やクレジットカードは、手元にまとまったお金がなくても大きな買い物ができる、非常に便利なシステムです。ただ、計画を立てずに利用していると、借金を返済できなくなる危険もあります。

上に示したように、クレジットカードを利用する際も、手数料についてもふまえながら、支払い方法を選択するようにしましょう。

3. 備える ライフプランを立てて「備える」

「ライフプラン」という言葉を聞いたことがあるのではないのでしょうか。ライフプランとは、これから自分が生涯にわたってどのように生活をしていくかの計画を立てること。このライフプランは、社会に出て生活していく中でとても大切なものなのです。

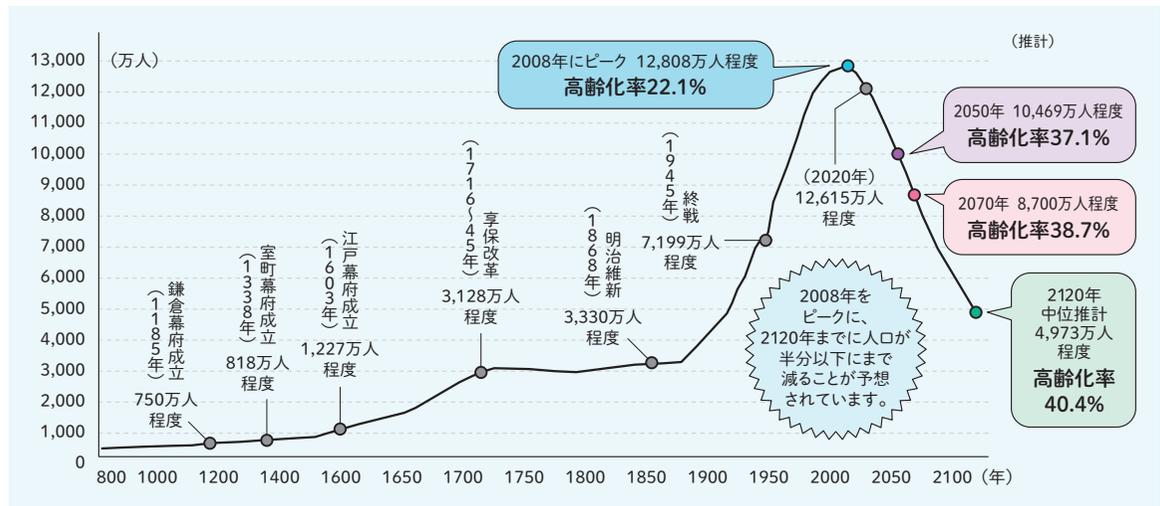
というのも、これからどのような人生を送るのかによって、必要となってくる経済力が変わってくるから。収入や支出は、そのときの生活状況によって変わってくるものです。これから社会へ出て生活していく際、毎日の食費や光熱費といった生活費だけでなく、就職や結婚、子育て、住宅の購入、老後の生活などといったライフイベントについても考えながら、生活していかなければなりません。あなた自身のことだけでなく、家族のことまでふまえてライフプランを立て、それに合わせて経済面について備えていく必要があるのです。



これから起こるであろうリスクにも備える

これからおよそ 100 年後の 2120 年には、日本の人口は明治時代の後半ごろと同じくらいになると言われています。今後さらに進むと言われている少子高齢化も重なり、今後、社会保障だけをあてにするのではなく、自分自身でどう備えていくかも考えていく必要があります。

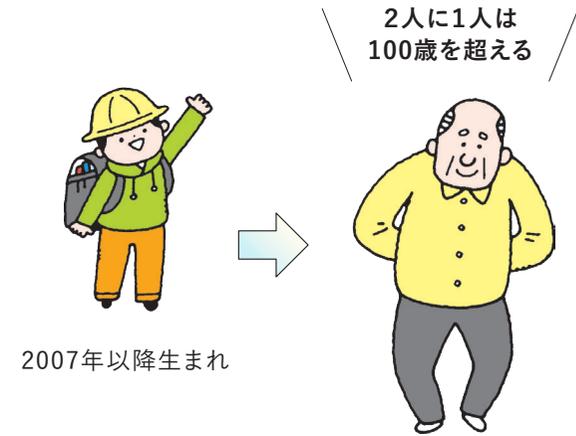
2120年までの人口の変動と予想



※高年齢率とは、65歳以上人口の総人口に占める割合のこと。
 出典：2023年7月4日国土審議会資料「国土形成計画（全国計画）関連データ集」、
 国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（令和5年推計）（出生中位・死亡中位）」

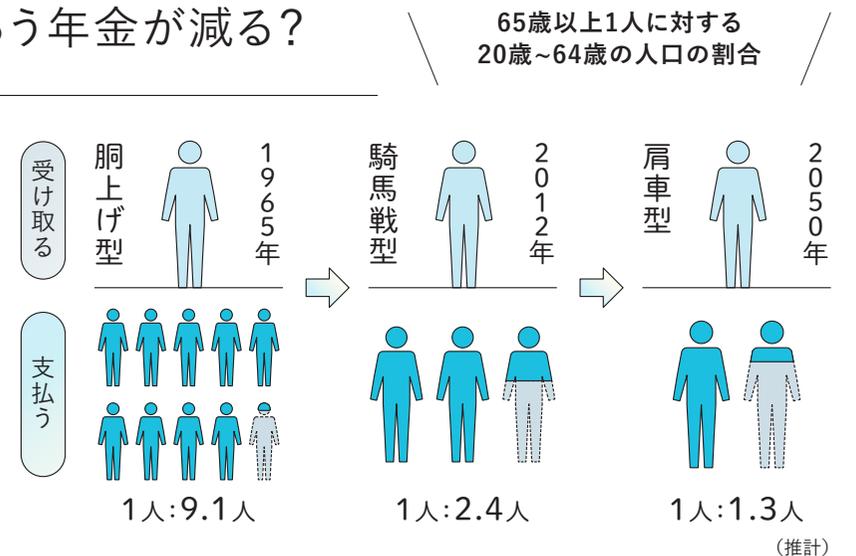
Risk 1 人生100年時代

2007年に日本で生まれた2人に1人が107歳まで生きるという「人生100年時代」が来ると言われています。100年間生きることを前提としたライフプランを立てておくといよいでしょう。



Risk 2 私たちがもらう年金が減る？

私たちが受け取れる年金は減ることが予想されています。右の図のように年金を受け取る高齢者の数が増え、年金を支える若者の数が減ることで、年金が減少していくと推定されています。



Risk 3 インフレーション(インフレ)とデフレーション(デフレ)の可能性も考えよう

インフレとは物価が上がってお金の価値が下がることで、デフレとは物価が下がってお金の価値が上がること。物の値段、物価は一定ではなく変わります。右はカレーライスと中華そば(ラーメン)の値段の30年間の変化。現在、世界はゆるやかなインフレ傾向にあります。こうした物価の変化を見据えながら、備えていくといよいでしょう。

	1990年	2000年	2010年	2020年	2023年
カレーライス	539円	656円	742円	714円	786円
中華そば(ラーメン)	451円	543円	594円	563円	665円

東京都区部の値段の推移。
 出典：総務省統計局「小売物価統計調査年報」1990・2000・2010・2020・2023年

自分のライフプランを想像してみよう

それでは、これからの人生におけるライフイベントにかかる費用を見ながら、自分のライフプランを想像してみましょう。特に三大資金と呼ばれる「住宅・教育・老後」についても押さえて考えてみましょう。

結婚にかかる費用

挙式・披露宴・ウエディングパーティの総額平均
327.1万円

そのほかにも…、
新婚旅行43.4万円
新婚旅行土産5.9万円

(いずれも全国推計平均値) 出典：ゼクシィ「結婚トレンド調査 2023」調べ



出産にかかる費用

平均
約50万円

出典：厚生労働省保険局で集計(令和5年5月)



三大資金 教育

幼稚園と大学のみ私立の場合

平均 **1,044万円**
(自宅通学の場合)

出典：文部科学省「令和3年度子供の学習費調査」「令和5年度私立大学入学者に係る初年度学生納付金等平均額(定員1人当たり)の調査結果について」をもとにアクサ生命保険が集計

学校種別の1年間の平均学習費 (単位:円)

	公立(大学は国立)	私立
幼稚園	165,126	308,909
小学校	352,566	1,666,949
中学校	538,799	1,436,353
高等学校(全日制)	512,971	1,054,444
大学	535,800	959,205

※全て1年の平均、大学は授業料のみ掲載。

出典：文部科学省「令和3年度子供の学習費調査」「令和5年度私立大学入学者に係る初年度学生納付金等平均額(定員1人当たり)の調査結果について」、e-Govポータル「平成十六年文部科学省令第十六号 国立大学等の授業料その他の費用に関する省令」

介護にかかる費用

介護を行った場所別介護費用
施設介護

約744万円

在宅介護

約293万円



介護にかかる月額平均(施設12.2万、在宅4.8万)に、介護期間平均5年1か月をかけて算出、出典：公益財団法人生命保険文化センター「2021(令和3)年度生命保険に関する全国実態調査」をもとにアクサ生命保険にて作成

教育費

sample

親の介護

定年退職

老後の生活

海外旅行費用

年間平均
約30万円

出典：公益財団法人日本生産性本部「レジャー白書 2023」

三大資金 住宅

首都圏でのマンション購入価格

新築 平均 **5,801万円**

中古 平均 **3,379万円**

出典：住宅金融支援機構「2023年度フラット35利用者調査」



三大資金 老後

60歳で退職、80歳までゆとりのある生活を送るために必要な金額

平均 **約3,936万円**

(約16.4万円×12か月×20年)

出典：公益財団法人生命保険文化センター「2022(令和4)年度生活保障に関する調査」、厚生労働省報道発表資料「令和4年度の年金額改定について」をもとにアクサ生命保険にて作成

ゆとりある生活費の内訳

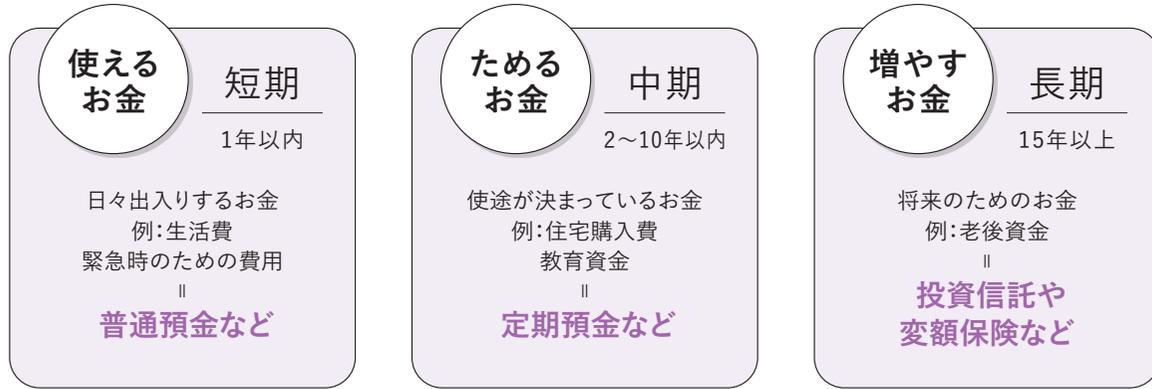
ゆとりある生活を送るために公的年金以外に必要な費用
約16.4万円

収入	支出	支出合計 約38.4万円
毎月の不足額 約16.4万円 厚生年金 約22.0万円 夫婦2人分の標準的な年金額	ゆとり費用 約15.1万円 最低日常生活費 約23.3万円	

ここに載せている内容は、ほんの一部、目安であり、現実には大きな病気やけが、事故などのリスクへの備えも必要です。また、将来つきたい職業が決まっていれば、それについても具体的に落とし込んでライフプランを立ててみましょう。

4. 増やす 「増やす」うえでカギとなる資産形成

P8-9 で想像したライフプランを実現させていくためには、ある程度のお金は必要になります。ライフプランを実現させていくためにも、お金を次の3つに分けて考えていきましょう。



ここで注目するのは、「増やすお金」。将来へ向けて、自分が持っている資産を増やしていくためには、「資産運用」がカギとなります。「資産運用」とは、自分が持っている資産を株式などに「投資」して増やしていくことです。

日頃の生活費など、すぐに必要となるお金は、普通預金などとしてもっておくことが大切です。一方、老後資金をはじめとした将来必要となるお金は、「投資」によって、長い期間をかけて少しずつ増やしていくとよいでしょう。株式や投資信託などには、値上がりや利益の分配などを通じて、**貯蓄金よりも利益を得られる可能性が高いという特徴があります**（もちろん「損失」のリスクもあります）。

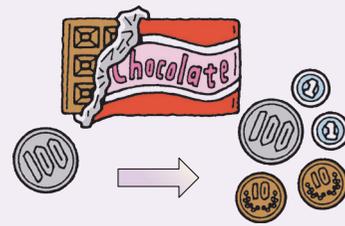
それでは、「投資」に注目しながら資産形成のポイントを見ていきましょう！

お金の「価値」は変わる

今、あなたが100万円もっているとします。もしそれをタンスにしまっていたら、どうなるでしょうか。

10年後も20年後も100万円ですね。

ただ、P7でも触れたとおり、お金の「価値」は変わるものです。代表的な例がインフレ。日本銀行は物価の上昇率2%を目指して経済政策を行っています。仮に物価の上昇率2%が10年間続くと、10年後の100万円の「価値」は現在の80万円くらいの「価値」になるのです。お金の「価値」は変わっていくこともふまえて、長期的な視点で資産運用していくことも大切といえます。



物価の上昇率2%が10年間続いた場合、100円のチョコレートは、122円くらいになります。

そもそも「投資」ってどのようなもの??

「投資」という言葉に、「一発大もうけできることがある反面、大損することもあるギャンブルのようなもの」という印象をもっている人もいるかもしれません。でもそれは「投資」ではなく、「投機」。この2つの言葉の違いを整理しておきましょう（右図）。

投機の「機」は機会をうかがうということ。投資の機会をうかがい、短期でもうけようというのが投機です。

投資と投機の違い

	投資	投機
期間	長期	短期
リスク	大きくならないようコントロール	大きい
リターン	ゆっくり増やす	大きな利益を求める

By the way

ちなみに…

「ギャンブル」は「賭け事」のこと。スポーツの勝敗などに金銭等を賭け、それによって利益を得ようとする行為です。「ギャンブル」には主催者がいるため、場所代などの手数料を参加者の賭け金からかなりの割合で差し引いています。その結果、参加者へ還元される利益が大幅に少なくなる点が「投資」や「投機」との大きな違いです。

sample

国も投資を促している!

経済の流れを活性化させるためには、多くの人が株式を買うなどの投資をして、社会のお金の流れをよくすることは大切。そこで、国民が投資しやすくなるような制度が導入されています。NISAの成長投資枠、つみたて投資枠、iDeCoです。これらの制度を利用することで、決められた期間、金額の範囲内であれば、非課税投資枠（税金がかからない投資枠）を使って運用できます。

	NISA		iDeCo	一般口座・特定口座
	成長投資枠	つみたて投資枠		
年間非課税投資枠の上限	240万円	120万円	14万4,000円~81万6,000円 (職業などにより異なる)	非課税投資枠なし
非課税限度保有限度額	1,800万円 (うち成長投資枠1,200万円)			
運用期間	無期限		加入から75歳まで	制限なし
資産の途中引き出し	いつでも可	いつでも可	原則60歳まで不可	いつでも可



監修：樋口雅夫 玉川大学教育学部教授・元文部科学省教科調査官

2022年4月から、高等学校では年次進行で新学習指導要領が実施されています。今次改訂で注目されたのは、18歳という年齢、そして家庭科教育でした。これは、民法改正で成年年齢が18歳に引き下げられることに伴い、ライフプラン実現のための資産形成やリスク管理を扱う教科である家庭科に期待が集まったからです。金融などの実務に詳しい専門家によって作成された本副教材が、授業や家庭での学習に役立つことを願っています。

協力：アクサ生命保険株式会社

発行：「知っているだけで未来が変わる!? 高校生のための金融リテラシー力」発送事務局
東京都千代田区外神田3-14-7 TEL：03-3527-1135 株式会社スタディマーケット

Form NO.0X0577(2.0) 2024/08